異邦の薫り

福永武彦

新潮社

異邦の薫り

昭和五十四年四月五日　発行
昭和五十四年八月十五日　四刷

定価　一八〇〇円

著者　福永武彦
発行者　佐藤亮一
印刷所　大日本印刷株式会社
写真版　錦明印刷株式会社
製本所　神田加藤製本株式会社
発行所　株式会社　新潮社
東京都新宿区矢来町七一
郵便番号一六二　振替東京四-八〇八
電話業務東京(〇三)二六六-五一一一
編集東京(〇三)二六六-五四一一

乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

© Takehiko Fukunaga, Printed in Japan, 1979

目

次

一　新聲社（森鷗外）『於母影』　7
二　上田敏『海潮音』　23
三　永井荷風『珊瑚集』　37
四　堀口大學『月下の一群』　57
五　佐藤春夫『車塵集』　75
六　日夏耿之介『海表集』　89
七　『山内義雄訳詩集』　105
八　鈴木信太郎『近代佛蘭西象徴詩抄』　123
九　茅野蕭々『リルケ詩抄』　141

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

十　高村光太郎『明るい時』　155
十一　呉茂一『ギリシア・ローマ古詩鈔』　169
十二　金素雲『朝鮮詩集』　185
十三　壽岳文章『神曲』　203
後記　219
訳詩集略年表　224
福永武彦著作目録　231
索引　233

カット・装画　福澤一郎

異邦の薫り

十三冊の訳詩集

一　新聲社（森鷗外）『於母影』

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

我が国の明治以降の訳詩集の中から、代表的なものを幾冊かあげるとしたなら、まづ指を屈するものは『於母影』である。私は何も年代を追つて順々に取り上げて行くつもりはないが、訳詩集と言へばすぐさまこの『於母影』が頭に浮んで来る。年代順に行けば一番初めに来るのは明治十五年（1882）に刊行された『新体詩抄』だらうが、私はその中に詩的感興をそそられるやうな作品を、殆ど発見することが出来ない。しかるにそれから僅か七年後に発表された『於母影』に於ては、古びてはゐるが心地よい薫りを、つまりは異邦の薫りを、豊かに感じるのである。なるほど有名な点から言へば、『海潮音』や『珊瑚集』ほどには知られてゐないかもしれない。また同じ森鷗外には、他にも訳詩集（創作の詩を含む）として『沙羅の木』の一巻がある。しかし『於母影』はおよそ訳詩集といふジャンルを考へる時に、第一に指を折るべき重要な作品なのである。

森鷗外は明治十四年に東京帝国大学の医学部を卒業して陸軍に入り、明治十七年から足掛け五年間、官費の留学生としてドイツの各地に滞在した。帰朝の翌年は明治二十二年（1889）で、この年の三月に最初の妻赤松登志子と結婚し、五月末に上野花園

町の赤松家の持家に引越した。そこでこの家の二階に鷗外の友人たちが集つて、文学談を闘はすことになつた。鷗外の最も親しい友だつた賀古鶴所（かこつるど）は同人ではないが、その賀古の友人の井上通泰（歌人、万葉学者）、その井上の友人の市村瓚次郎（東洋史学者、漢詩人、器堂と号す）、その市村の友人の落合直文（国文学者、この前年の作に有名な「孝女白菊の歌」がある）、それに鷗外の妹小金井喜美子（前年に帝大教授小金井良精と結婚してゐる）などが同人を構成し、「新聲社」と名づけられてゐる。この結社名は『於母影』を纏めるために急いでつけられたのかもしれないが、後の同人雑誌「しがらみ草紙」の母体でもあつた。この年鷗外は二十七歳、井上通泰はその四歳下、市村瓚次郎は二歳下、落合直文は一歳上、そして喜美子は八歳下である。そして彼等の共同作業によつて、徳富蘇峰が主筆をつとめた總合雑誌「国民之友」第五十八号（明治二十二年八月二日発行）の夏期附録（『藻塩草』といふ全体の名前がついてゐる）の中に、他の散文三篇と並んで、この『於母影』が、S・S・S・S・といふ匿名のもとに一挙に掲載された。S・S・S・は新聲社の頭文字だが、一個人のペンネームだらうと世人に受け取られたことが市村瓚次郎の鷗外追悼文「新聲社の頃」に見える。

この『於母影』は、全体として八十八頁ほどある雑誌の中で、口絵を別にすれば、四十五頁から六十頁に至るまでの合計十六頁にすぎない。収めるところは十七篇である。

ついでにこの作品の沿革を述べておけば、三年後の明治二十五年（1892）に春陽堂から出た鷗外漁史著『美奈和（みなわ）集』（『水沫集』とも書く）は創作と翻訳との両方から成

る小説戯曲集だが、その附録に『於母影』が「新聲社訳」と銘記されて収められてゐる。このとき作品が二篇ほどふえて計十九篇となつた。このあと『水沫集』は改訂版が出、縮刷版が出たが、戦前の岩波書店刊行鷗外全集に至るまで、この「新聲社訳」が消えたことはなかつた。（因にこの作品は、全集の翻訳篇にではなく、著作篇の方に入つてゐる。）最近岩波書店から出た編年体に編輯された菊判大型の全集では、この註記はない。

鷗外の生前に常に「新聲社訳」を伴つたのは、鷗外がこの作品の成立を重んじた（或は懐しんだ）ためであり、その実質に於て、これが鷗外のヘゲモニイのもとに作られたことは疑ふ餘地がない。鷗外は明治三十八年に書いた「改訂水沫集序」の中で、このやうに述べてゐる。

「何の方鉞もなく取りて、何の次第もなく集めたるものなれど、社中の人々がしのばずの池に臨める樓上に夜を徹して、此一巻を編み成しし時を憶ひ起せば、毎篇毎闋毎句毎字、一として深き感慨の媒ならぬはなし。」

不忍の池云々はこれが上野花園町の家であることを示してゐるから、引越のあと「国民之友」に掲載されるまで、十七篇が極めて短い期間に成つたことは明かである。小金井喜美子の思ひ出などによれば、鷗外がその愛誦するところの詩（主としてドイツの。英詩はシエークスピアとバイロンのみ）を誦して、その意味を詳しく説明する。聞いた方は否應なしに横のものを縦に直す。うまく行かなければ（といふことがしば

しば起るだらうから）その時は鷗外が訂正加筆する。友達同士とは言つても、新帰朝者でドイツ語の通である鷗外が権威を以て当つたことは想像にかたくない。訳者の推定は、落合直文二篇、井上通泰二篇、市村瓚次郎一篇、小金井喜美子二篇または一篇、残りの十篇または十一篇（及び後に加へられた二篇）はすべて鷗外といふことにほぼ決定してゐるやうだが、鷗外の添削は他人の翻訳にも遠慮なく及んでゐるものと見なければならない。つまり『於母影』は、下訳を使ひはしたが鷗外一人の翻訳だと言つて言へないことはない。そしてこの翻訳の影響は（それが加はつてゐる『水沫集』の影響として更に深く）この後の我が国の文学に及ぶのである。

さて私は何も難しいことばかり言ふつもりはないので、美しい詩を引用してそれについての感想を述べれば足りるが、この薄つぺらな詩集の、大袈裟に言へば革命的な意味を、もうちよつと我慢して聞いて頂きたい。詩集をなす全部で十九篇の詩は、その原文は和文一、漢詩二、英詩四、ドイツ詩とドイツ文十二に分れ、出来上つた翻訳の方は和歌一、漢詩六、新体詩十二といふので、最も重要なのは勿論ヨーロッパの詩を訳したこれらの新体詩十二篇にあるが、それにもまして、目次には個々の作品が次の四種類に分類されてゐる点に注目したい。その四種とは「意」と「句」と「韻」と「調」で、そこに驚くべき新機軸があつた。「意」といふのは「原作の意義に従ふ」もので、例へばヴィルヘルム・ハウフの童話「隊商」を七言古詩の漢詩「盜侠行」に移すやうな場合で、これなどは勿論意義に従ふほかはないだらう。「意」は十篇ほどあ

るが、最も短い「花薔薇（はなさうび）」を、次に引用しておかう。（原作はカルル・ゲーロック、これは井上通泰が訳者だといふことになつてゐる。）

わがうへにしもあらなくに
などかくおつるなみだぞも
ふみくだかれしはなさうび
よはなれのみのうきよかは

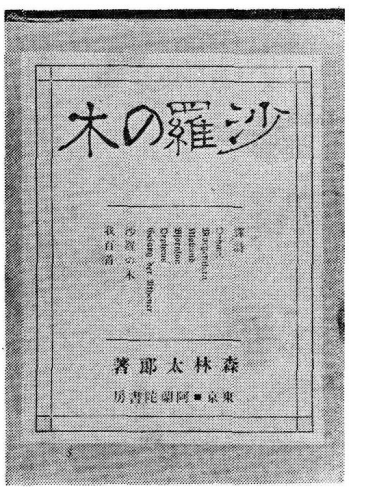
内容は悲劇的な抒情詩だが、私はこの詩を讀むと、つい佐藤春夫のちよつと滑稽な次の詩を思ひ浮べてしまふ。これをもぢつたといふ証拠はないが。

君は夜な夜な毛糸編む
銀の編み棒に編む糸は
かぐろなる糸あかき糸
そのラムプ敷き誰（た）がものぞ。

「意」の次に、原作の意義と字句とに従ふ「句」が四篇、意義と韻法とに従ふ「韻」が三篇、それらの全部を兼ね備へた「調」が二篇ほどあるが「調」は漢詩だから別にす

るとして、「句」と「韻」とはいづれも大した力業である。まづ例として、バイロンの「マンフレット一節」(Manfred)四十三行のうち、初めの十一行ほどを引用する。(訳は縮刷版による)

ともし火に油をばいまひとたびそへてむ
されど我いぬるまでたもたむとも思はず
我ねむるとはいへどまことのねむりならず
深き思のために絶えずくるしめられて
むねは時計の如くひまなくうちさわぎつ
わがふさぎし眼はうちにむかひてあけり
されどなほ世の常のすがたかたちをそなふ
なみだはすぐれ人の師とたのむ物ぞかし
世の中のかなしみは人々をさかしくす
多く才ある人は世に生ふる智恵の木の
命の木にあらぬはかなさをなげくなり



『沙羅の木』函の表紙

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com